

施策改善シートの詳細(県民評価者に記載いただいた「改善提案シート」を課題・提案内容等により分類)

※複数の提案に跨るものについては、いずれかの提案内容に分類しています。

4班 地域資源を活かした文化芸術の振興

課題	県が何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
伝えたい世代に合わせた広報の実施					
県の文化芸術の取り組みを県民に知ってもらう	<県・市・民> ニーズ伝達先の的確な把握、若者向けはSNS、小中には学校から、大学生・大人はボランティア参加型に				
広報	方針の決定・市町への通達、イベント・市町への通達	市町	家庭、企業への周知	企業	従業員への周知
広報が足りない	ツールを増やす				
広報活動(SPAC)	従来の広報に加え、ネットを活用した広報	市町	市町をまき込んだ活動の増加、市・町で参加者募集し、市町の公用バス等資料し参加する機会をもうける		
広報活動の強化	ネットへの投稿の強化	NPO	開催するイベントを積極的に投稿する、@Sニュース等に		
広報の本気度	伝えたい世代に対応して広報の形態を変える (若者→SNS(Instagram,twitter)の活用、30~40代→新聞やFacebook、高齢者→掲示板やチラシなど)				
広報をする					
情報発信の仕方	若年層に向けてSNSでの発信	市町村	身近な題材で情報発信	SPAC	中高生芸術鑑賞教室の充実
情報発信の充実	あらゆる手法を検討し、試してみる				
情報発信の充実	SNSで簡潔に発信(詳しい内容はHPへのリンクで対応)	企業、NPO、大学等	情報発信の専門家の意見を取り入れる		
情報発信の充実(SPAC、文化PG)	財務、人材育成、支援	アーツカウンシル	人材育成、施設運営	市、企業、NPO、個人	運営、参加、SNS
情報発信をいかに充実させるか	県民を巻き込む、参加型の活動の強化	個人	アンテナを強く張る	市町	県より身近であることを利用して発信 地域間での情報格差をなくす
底辺の拡大をした方がいいのでは？ 中高生に活動の場を提供する。(プラスバンド)市民体育館等	市町のバックアップ	市町、企業、NPO	文化会館を提供する 近所の人・親戚→家族→本人←友人		
どのように知ってもらうか	youtubeの広告をする				
認知度が低い	外部の良い例を調査・取り込む	民間・他自治体	よい事例を提供する		
富士山文化遺産の更なる活用(現状山梨県に遅れをとっているのでは)	PRの強化	市町	市町と県との連携強化を		
富士山やSPACをはじめとする文化芸術を浸透させ静岡を誇りに思う	広報活動の方法を再考する	〇〇大使など	より身近に感じる活動		
地域に密着した文化活動の推進					
SPACのtwitterのフォロワー数を増やす方法	SPACの専門学校を造ったりする				
SPACや文化プログラムなどの県の事業の認知度の低さ	SPAC公演への招待を増やす	学校	紙媒体だけでない(ホームページを見せるなど)の宣伝		
SPACを県外の人に知ってもらう方法	県外の有名なゆるキャラとコラボする				
アイデアを集める機会の増加	目安箱の設置、アイデアの収集	県民	投稿	法人等、県	アイデアをまとめる、実行
参加型の取組	将来を見て子供を中心に参加できるものを 遠隔地には巡回方式で、市・町を巻き込んで実施する				

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
静岡県の文化的魅力を増す	スパックという劇団を持っているという強みを生かして県内の大学で舞台芸術の学部を作る、静岡に来ると一流の芸術が学べるよねという強みにする				
静岡らしさが取り込まれているか不明である	静岡の地域資源を生かした取り組み	県内各所	県とともにイベントを実施		
地域に根ざした文化	食文化を始めとする生活の中での衣食住にも静岡の魅力はあると思うので、東西に長い特色を生かしてそれぞれの独自の文化をアピールする				
地域密着型の文化芸術		市	気候、今の時代に沿った祭り、催し物の検討 “古くさい”と思われず地域文化を広めたい→当事者である若者と、地域の人が話し合いをする場を設けても良いのでは。かなり頭の堅い方が多い気がする(偏見)ので少し恐い		
富士山と文化					
文化芸術の振興	県の施策で様々な政策を実施しているので、これ以上数を増やすのではなく、民間で文化芸術に取り組み企業や団体の支援を充実させるのがよいと思う				
文化芸術の特徴の伝え方	予算配分から、演劇・グランシップに投資されているのは分かります。高校の演劇課構想も含め、文化を根付かせるためロードマップを作るべきだと思います。				
文化を実践するSPACの効率的な活動	応援団のしくみを作る(池袋の例:アトカル大使)各市町にSPACのチーム(アーティスト)をおく				

子どもや若者が文化芸術活動に触れる場面を創出

SPACを小中高天に興味を持ってもらう方法	初めて見る人は値引きできるようにする				
高校・大学(演劇・吹奏楽等の)公立文化施設自主事業、貸し出しによる底上げ	テスト、試験等も忙しく、部活動に割ける時間も少ないため、これ以上頻繁に(ましてやこのコロナ禍で)コンクール・発表会を行っているのは難しいかもしれませんが、“友達”や“兄弟”が出ているというきっかけから文化に触れる機会づくりはとっても良いと思う。県のサポートも加え、学校からも文化部の催し物をさらに盛り上げるチラシなどを作ってみてはどうか、また、これも発表の場を設けてもいいかも				
広報(若年層)	学校等へHPの案内、twitter、インスタ等SNSの周知	学校	生徒への周知、教員の興味		
小学生から芸術に触れる	和を作って人と仲よくする				
大学生の文化芸術の関わり方	大学と連携して文化芸術に触れる機会を設ける	市町など	県外に出た人に静岡の文化芸術の価値を感じてもらう		
地域文化プログラム(SPAC特)中高生鑑賞プログラムの強化<未就、就学児までふれさせる>	財務	教育市	運営、送迎方法、参加型		
文化芸術の伝え方 文化を知ることによって視野が広がる→自分の進路にも活用できる？ 受け身になるのではなく発信する側に	(やはり芸術は不要不急なものであるからこそ、参加者自身にだけ残っても浸透度は低い・・・) 参加者が発信できる場を学校に設けて欲しい 学年集会・全校集会での発表など チラシ作成代などで費用がかさむだろうけど、いまいち興味をそそるような説明が薄い気がする				

県民が文化芸術に触れやすい環境の整備

「文化」の範囲についての理解	条例の説明などわかりやすい言葉で説明する	企業	衣食住それぞれの分野でこれは文化の一つであるということの意識を高める		
芸術の鑑賞					
県の活動が周知がされていない。参加している人の割合も少ないのでは	サポート 逸脱しないよう見守り	企業	一般庶民が興味いただきみずから参加したくなるようなやさしい文化芸術イベントの企画 →自体にみりよくがあればSNSを通じ、情報が拡散しやすい		

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
県の取り組みは見えることは実施しているが、参加できる形がない	文化・芸術の目的の理解活動 講座など教室を開催して伝達				
県のおよ、新しい文化の見直し、発見 —アニメ、大道芸、ホビー—新しい文化	サポート 逸脱しないよう見守り	企業	文化芸術に関心のうすい体育会系の人も参加しやすくなる ようなゲーム性・アクティブ性をもった企画 文化の土地、美術館めぐると何か集まるとか、電子スタンプ ラリー、ラインとか県庁アプリと連携できるような 外から検索して見つけてもらう		
県民の地域のリテラシー醸成 静岡県を代表する様な芸能を定着させる	代表する芸能の選択と行動計画の作成	市町 教育委員会	代表芸能の内容と〇〇の作成		
静岡県＝(といえば)文化芸術のまちにする	SPACや芸術プログラムを紹介、参加する企画を小中高へ 出す	小中高	夏休みの宿題として芸術を見て感想(研究)、芸術プログラム に参加して、文を書く		
どうしたら県と県民が志と情報ともにツーカーになれるか	課題1の内容を引き継ぎつつ、互いに知る姿勢を絶やさな い	県民			
文化・芸術と距離の縮め方	何故大事か、心から必要を思える県にするための広報・教 育・街づくり				
文化・芸術を生活の一部とする	若者への教育の広域化・強化 とつきやすいものに、ハードルを下げる	個人	興味・関心を強く持つ		
文化行政への関わり方	歴史的建築物の維持・支援	個人	情報を知る		
文化芸術が生活の一部となるための方策	接触頻度を増やすこと、街中演劇を定期的にする、コストの かからないSNS活用(twitter他)	企業	社員還元のために鑑賞会をやり易いように促す		
分担、他分野との連携	支援	市町	運営	個人	
距離や情報の格差	複数の手段を設ける	市町	身近な文化芸術に触れることから始める		
地域間格差	人材育成・データバンク	四町村・NPO	県は指導助言、四町村・NPOは地域人材や伝統芸能を生 かした地域密着型の行事等を実施		
東西南北への文化芸術浸透・大学との結 びつき					
その他					
会場ビルのトイレの改善(トイレも文化で は)(トイレが和式と洋式(ウォシュレットな し)今時めずらしいのでは)	改装を				
県の役割	事業ごとに担当職員をつける、予算を配分するだけでなく、 客観的すぎないレビューをする必要があると思う				
文化が支える視点での目標設定	富士山ほか拠点の整理 県総合運動場のレガシーたるや、陸上の世界記録やペー ブルースである、としっかりと切り出すことが大事 演劇も、今からでもシナリオをつけて見せることが大事				